

令和2年第3回臨時会

10月20日に第3回臨時会が開かれ、下記の議案審議を行いました。

議決結果

(※議長 河村善一は採決に加わっていません。) ○賛成・×反対

議案番号	件名	澤田源宏	村西作雄	森野隆	西澤桂一	村田定	伊谷正昭	高橋正夫	外川善正	徳田文治	吉岡泰三子	瀧すみ江	竹中秀夫	辰己保	議決結果	議決日
議案第59号	財産の取得につき議決を求めることについて 令和2年度 愛荘町GIGAスクール教育用端末購入事業 契約金額 134,697,365円 契約の相手方 株式会社大塚商会滋賀営業所														全員賛成	10月20日 可決
議案第60号	財産の取得につき議決を求めることについて 令和2年度 愛荘町学校ICT環境整備業務 契約金額 108,474,300円 契約の相手方 株式会社ウチダビジネスソリューションズ彦根支店														全員賛成	

令和2年第4回臨時会

11月30日に第4回臨時会が開かれ、下記の議案審議を行いました。

議決結果

(※議長 河村善一は採決に加わっていません。) ○賛成・×反対・欠欠席

議案番号	件名	澤田源宏	村西作雄	森野隆	西澤桂一	村田定	伊谷正昭	高橋正夫	外川善正	徳田文治	吉岡泰三子	瀧すみ江	竹中秀夫	辰己保	議決結果	議決日
議案第61号	愛荘町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 人事院勧告に基づき、「一般職の職員の給与に関する法律等の一部を改正する法律」が閣議決定されたことにより、これに準じて関係する条例の一部を改正するもの。 (第1条:公布の日から施行、第2条:令和3年4月1日から施行)	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×		11月30日 可決
議案第62号	愛荘町特別職の職員で常勤のもの給与および旅費に関する条例の一部を改正する条例 人事院勧告に基づき、「特別職の職員の給与に関する法律等の一部を改正する法律」が閣議決定されたことにより、これに準じて関係する条例の一部を改正するもの。 (第1条:公布の日から施行、第2条:令和3年4月1日から施行)	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
意見書第7号	防災・減災、国土強靱化対策の推進を求める意見書 提出者 竹中 秀夫 議員 賛成者 森野 隆 議員・西澤 桂一 議員 伊谷 正昭 議員 令和3年度以降も引き続き、防災・減災、国土強靱化対策を協力に推進するため、下記の措置を講じられるよう、要望するもの。 1 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」および関連する地方財政措置を、令和3年度以降5年間継続すること。 2 インフラの老朽化対策、平常時・災害時を問わない安定的な輸送を確保するための道路網のダブルネットワーク強化など対象事業を拡充すること。	○	欠	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	×		

総務産業建設常任委員会活動報告

12月定例会

12月定例会会期中の常任委員会では、各課における事業の進捗状況の調査を行った。

総務部門

12月10日(木)開催

- ・経営戦略課
- ・(行財政改革推進室)
- ・税務課
- ・みらい創生課
- ・まちづくり協働課
- ・くらし安全環境課
- ・人権政策課
- (各地域総合センター)
- 経営戦略課では、コロナ禍における指定管理施設の影響と、モニタリング結果の議会への報告を求めた。
- 庁舎集約にかかる町の方針については、1月に協議するとの答弁があった。
- 税務課では、徴収率の前年実績の確保について、徴収猶

予によるものとの回答があった。

みらい創生課ではグラウンドデザインの進捗状況について質疑があり、方向性を検討中であるとの回答があった。また、広報活動のあり方の検討を求めた。

まちづくり協働課では、E-商品券の使用状況について、自治会活動再開円滑化補助についての追加申請の状況について、質疑があった。

くらし安全環境課では、大型生ごみ処理機実証実験の評価と、今後の考え方について質疑があり、5年経過後評価するとの回答があった。また、コミュニケーション防災無線放送システムの変更内容の報告があった。

各地域総合センターでは、コロナ禍での事業進捗について質疑があった。

人権政策課では、コロナによる人権侵害について、町全体での問題として取り組むとの答弁があった。

産業建設部門

12月11日(金)開催

- ・農林商工課
- (観光物産推進室)
- ・建設・下水道課
- 農林商工課においては、特にコロナ禍におけるアフターコロナ中小企業等体制強化事業の内容および今後の方向性や、次年度の商工会事業についての質疑が行われた。
- コロナにおける指定管理施設の運営および経営状況の影響



総務産業建設常任委員会

先進地視察

三重県東員町

11月16日(月)

当町でも課題である空き家対策や農業と産業等の連携に着目し、三重県東員町を訪問した。

東員町は、三重県で空き家率が一番低く(三重県平均15.2%・東員町6.3%)空き家を利用したい件数が上回っている現状であった。

近畿圏で移住したい町一位に選ばれたこともあり、災害



シグマファームを視察

響についても質疑された。また農地での太陽光発電事業についても指摘があり、しっかりと対応するよう要請があった。

建設・下水道課では、地籍調査の今後の見込みとラウンドアバウト事業(循環型交差点)について質疑が交わされた。

また、道路空洞化調査・除雪対策については、委託方法をしっかりと精査するよう指摘があった。

に強い町として、移住希望者が多く民間の力を活用し、移住促進に取り組まれていた。

次に農福連携の「シグマファームとういん」を訪れた。

ここでは新たな雇用の創出に取り組み、障がい者の就労継続支援に大きく寄与されていた。

また、「なばな」栽培において、障がい者就労施設のGAP(農産生産工程管理)認証取得し、さらに多くの障がいのある方が利用できるよう、新施設増設や新たなGAP認証取得に取り組まれている。

コンパクトなまちではあるが、ほど良い自然に囲まれた環境と、ほど良い都市的な便利さに魅力を感じる住民が多い。